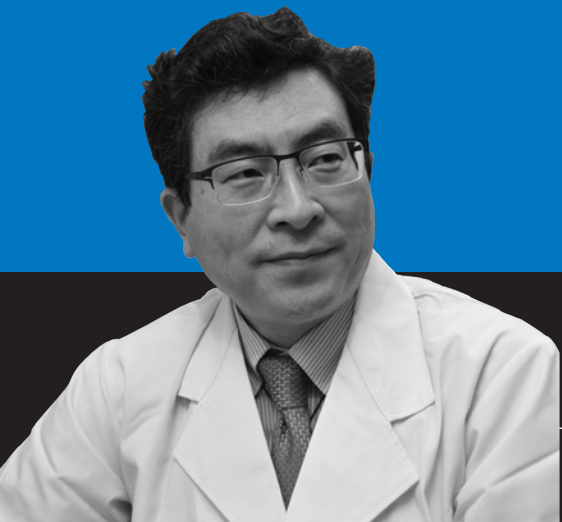


開業医院施設 Interview

インタビュー



医療法人 あやめ内科 (山口県下関市)

綾目 秀夫 院長 Hideo Ayame

〒750-0815 山口県下関市本町1丁目1-20
TEL.083-228-1024 <http://members.jcom.home.ne.jp/ayamenaika/>

関門海峡を挟み九州と向かい合う山口県下関市で、船舶が行き交う海を臨む立地にある医療法人あやめ内科。院長の綾目秀夫先生は患者さんの治療継続を第一に考え、患者さんにとって居心地のよいクリニックを目指すとともに、初診時の診察と疾患教育に3時間かけるなど糖尿病の療養生活に対する動機付けに力を入れている。糖尿病診療は個々の患者さんに合わせてカメレオンのように対応することが重要と話す綾目先生に、クリニックの特徴や糖尿病診療への思いについてお話を伺った。

居心地のよいクリニックを目指して

一 開業までの経緯について教えてください。

私は1988年に山口大学医学部を卒業し、同大学の第3内科に入局して糖尿病を専門に学びました。関連病院の糖尿病センターなどに勤務するなかで、平日の午前中の診療だけではどうしても治療からドロップアウトする患者さんがでてしまうことから、継続した糖尿病の治療には総合病院よりもむしろクリニックの方が適しているのではないかと考えるようになり、2002年12月に開業しました。糖尿病は一生付き合っていく疾患ですので、患者さんが治療と仕事や学業とを両立しやすいように、現在は通常の診療時間に加えて、週1日は7時45分からの早朝診療と19時までの夜間診療を行っています。

患者さんにとって居心地のよいクリニックであることを目

指して開業しましたが、患者さんが増えるにつれて、なかなか当初のコンセプト通りにはいかなくなってきました。そのような中、クリニックを居心地のよいものにするための取り組みの一環として、待合室の椅子の数が十分でなくなり患者さんにご不便をかけていたので、多くの患者さんが座れるように椅子をリニューアルしました(写真1)。椅子に使用した材木は、私の故郷である岡山県新見市哲西町の山林に祖父が植えたヒノキを切り出したものです。ヒノキは本来、家具には向かないのですが、同じ岡山県北部の西栗倉村で地元の素材を使って家具作りをされている「木工房ようび」の職人さん達がぬくもりのある椅子へと生まれ変わらせてくれました。新しい椅子は2015年1月から設置しましたが、患者さんにも好評をいただいております。開業した当時の気持ちを思い出すきっかけになったように思います。